

令和7年度 眉山活性化委員会（第1回）

議事録（要約）

開催日時 令和7年7月10日（木） 午後1時から

開催場所 徳島市役所8階 庁議室

議 事 (1) 開会

(2) 副市長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 設置要綱と組織体制

(5) 眉山活性化基本方針（案）について

(6) 令和7年度眉山未来プロジェクトについて

(7) 閉会

出席者・委員8名（山中会長、瀬尾副会長、青木委員、柏原委員、内藤委員、長谷川委員
渡辺委員）

・事務局他

【会議の内容】

(5)眉山活性化基本方針（案）について

（会長）

眉山活性化基本方針案についてご質問やご意見を伺いたい。

（委員）

眉山山頂のトイレについて、ウォシュレットなど洋式化され、すでに対応できているものもあると思うが、状況はどうなっているのか。

（事務局）

ご指摘いただいたトイレについては、インバウンドの来園者が多いため、それに合わせて応急的に対応したものである。眉山未来プロジェクトを進めていく中で抜本的な改修を予定している。

（会長）

対応はいつされたのか。

（事務局）

今年度に入って対応させていただいた。

(会長)

資料でトイレの洋式化をしたという旨を書いておくといいと思う。

(委員)

カフェなどを設けた時に閑散期など採算が取れない時期が想定される。カフェと合わせて週末にキッチンカーに来てもらうことも考えられる。キッチンカーへの対応もしっかりやってもらえたらと思う。

(会長)

キッチンカーの対応はどこかに書いていたか。

(事務局)

後ほどキッチンカーについては説明させていただく。

(会長)

基本方針の案については、ご了承いただけたということで区切りとさせていただく。構想なので今後どれを実現していくかという話になっていくと思われる。資料3のご説明をお願いします。

(6)令和7年度眉山未来プロジェクトについて

(会長)

確認されたいこと、ご意見などを伺いたい。

(委員)

大きなキャンプ場や、にぎわいイベントは良いと思う。既に新しく作られている喫煙所は、壁のデザインもよく、壁をバックに写真撮影している観光客もいる。しかしながら、そのような施設が出来たということがあまり広報されていないと思われる。市民や普段使いされている方に対してPRすることによって、眉山がいきなり令和12年度に新しくなったというのではなく、毎年良くなってきているということが分かるので、それが伝わるような広報活動を期待する。新しくホームページも作られると思うが、一方的に広報するのではなく、普段使いされている方からの意見を聞くような機能を付けてもらえればと思う。

(会長)

UGC（ユーザージェネレイティッドコンテンツ）と言われるものは、フェイスブック、

インスタグラム、エックスなどで一般ユーザーによって作られたコンテンツのことである。それらで掲載されるものについて、どういう状況で出てくるかを把握しながら、どこが皆さんのポイントになっているか、クレームなどを一早くチェックするといったことが観光セクションで導入されている。そのような形で活用していくことが大事だと思う。

(委員)

市民が町のことを自分事として考えられるかというのが重要なポイントであり、ホームページに意見を書けるようなシステムは良いと思われる。広報の工夫として、市民にクローズアップしたり、自分事としてとらえやすくなるような手法を模索していってもらえたらと思う。前年度も調査して頂いていたが、今年度も人出、消費額、満足度、改善すべき点などについて、継続的にデータを取っていくと、今後裏付けデータとして使えると考えられる。

(会長)

前年度からの調査を継続して、人流がどのように変わったか、人がどこに集まったか、変えたことによって効果が得られたかどうかも捉えられれば良いと思う。キッチンカーの話が出ていたが、どこにキッチンカーが置けるかということについては、どんな状況なのか。希望があるが、置けない場所もあったりするのか。

(事務局)

キッチンカーの設置個所については、複数候補地があり、その中から選んでいただく形を取っている。現状としては、西部公園でキッチンカーを出していただいた事業者もいたが、展望広場がほとんどという状況である。

(会長)

希望が重複して困ったりしたことはあるか。

(事務局)

複数台置けるので困ることはない。1日に最大3台出店があったが、競合して出店をお断りしたケースは発生していない。

(会長)

展望広場に車で入ってもらうことについてそれほど問題はないか。

(事務局)

ヒアリングで意見があり、展望広場に上っていく管理道があるが、非常に勾配がきつく、カーブも厳しいため、非常に条件の悪い園路となっている。キッチンカーによっては通行が困難であるというご意見をいただいている。販売物が汁物系であるとこぼれてしまうケースがあるようである。

(委員)

広報において、びざんびよりなど、自然を大きく打ち出しているが、市民の方や観光客に具体的にどのように伝えていきたいのか。今の段階で自然との関わりやコンセプト、考え方などで思いがあれば教えていただきたい。

(事務局)

びざんミーティングでご意見を頂いており、展望広場は東方面が開けており、一年を通して朝日を見るのに素晴らしい箇所となっている。朝日の様子を広報の中で発信していけばよいのではないかという意見をいただいている。それらも踏まえて、びざんびよりの中で発信していければと考えている。現状として木が鬱蒼と生えている箇所がある。今年度、場所を決めて伐採し、市民の方に来てもらえる眺望の良いスポットを数か所作りたいと考えている。それらの過程、結果等についてびざんびよりの中で広報していけたらと考えている。

(会長)

重要なポイントと思う。眉山の眺望はもちろん、いろいろな点で興味を持って眉山に登って来られる方がいるが、歴史的にも重要な場所である。様々なキーワードが出てくると思う。どういうところを打ち出していか、うったえられるものをいくつかピックアップして、何をキャッチコピーにしていくかについては是非ご検討願いたい。

(委員)

展望スポットを整備するのに伴って、道標も整備していただきたい。剣山神社への道標がない。今年の節分の時期に剣山神社の鳥居に大きなお多福のお面を設置しており、観光客がお多福の口から記念撮影していたが、剣山神社がどのようなところか知らない人もいる。スポットがどこにあるかという道標もあれば利用者の方が助かるのではないかなと思う。

(会長)

眉山は広いので、どのくらいの距離でどこに何があればというのが分かる案内があれば、利用者の人も行ってみようかという気になる。言葉のみより写真が入っていればよりイメージしやすい。

(委員)

キッチンカーも出来ており、計画が進んでいる箇所もあるが、集客数はどのような感じか。増加したのか、お客は実際に来ているのか。

(事務局)

海外のお客様が思ったより多く来ている印象である。日常利用されている方はまだまだ

少ない。登山のために継続的に日常利用される方はいるが、家族連れで利用される方は少ないように思う。この点は、再整備に向けて課題と考えているので、整備の手法をしっかりと検討していきたい。

（委員）

マルシェなど何かイベントがあると、徳島市内でもこんなに人でにぎわうのだなと実感する。藍場浜公園でも何かイベントがあると、アミコの方にも人が流れてきている。阿波おどり、お花見、紅葉の時期において、眉山は活性化されると思うが、それ以外の時期にイベントをすればいいと思う。キャンプ場は埋まっているのか。

（事務局）

現状としてキャンプ場はまだ整備していない。これから実験的にキャンプイベントを行い、整備に向けて検証を行っていく。

（委員）

キャンプは海に行く人が多い、それゆえに眉山に誘致するのは良いと思う。関係ないかもしれないが、頂上で広場を作って、小学生がドッジボール大会をするといったイベントも良いのではないかなと思う。商工会議所も何か市のためにできることはないかといつも話している。何か協力できたらと考えている。

（会長）

イベントもいろいろ工夫していただいて、愛好家などのグループもおられるので、様々な形でできればと思う。眉山でイベントをするイメージがなかったが、子どもを眉山の上に行きやすいようにするのもよい。私が関わっているサイクリングの分野では、トレジャーハンティングツアーというのがある。いろんな箇所に QR コードを配置し、誰も撮影していないような箇所の QR コードを撮影した人の勝ちとしている。トレイル（自然の中の道）が、眉山には沢山あるので、サイクリングではなく歩いてトレジャーハンティングをすることなど様々考えられる。なお、そのようなことをしたいグループも実はいる。眉山を開放すれば、手も挙がってくると思われる。

（委員）

資料 3（P16）の下から 2 つ目の国内外の観光客にも伝わるような魅力というところについて、地元の人にとっては当たり前のことでも、国内外の方からすれば新鮮な要素であったりする。それを伝えるということが想定される。例えば、P-PFI 民間活力の導入で、キャンプを想定されている。海外の方に対する発信として、多言語化もひとつであるが、具体的に今年推進出来たらよいと思っていることなどはあるか。あるいは、地元のホテルや事業者と情報共有して、宿泊者に対してイベント参加を促すような考えなどがあれば教えてほしい。

(事務局)

宿泊事業者としては、かいげつが挙げられるが、宿泊者数が最近増えていると聞いている。具体的には今後イベントについてかいげつと協議して、特にインバウンドの方にアンケートを取りながら、どのように発信するのがよいか今年度しっかりと検討していきたい。

(会長)

最近、OTA（オンライン旅行代理店）が、徳島でホテルを予約すると、ガイドツアーやイベントで行けば良い場所を出すようになってきている。眉山の上でこんなことができるというような、商材を作ってもらえる可能性が出てくる。うまくそのあたりをリンクしてあげればいい。

ブロンプトンという折り畳み自転車があるが、ロープウェイで自転車を20台くらい眉山山頂に持っていき、そこからゆっくり下っていくツアーをやっている。トリップアドバイザーに出している。様々な観光ネタはあると思う。結構一人当たりの支払い能力は高い。5人で1日遊んでも1人のガイドが潤うお金はある。企画単価が高いことを開発していく方法がいいのではないかとと思われるため、ぜひ検討お願いします。

(委員)

サウンディングをこれからやっていくと思われるが、事業者数はどれくらいか。

(事務局)

サウンディング事業者数の目標数はないが、サウンディングの目的に応じて、様々な事業者へのアピールに力を入れていきたい。

(会長)

キャンプ、全体のパークマネジメント、全体のコンセプトづくりに関する事業者にサウンディングする可能性が考えられる。こういうことをするとともに民間業者が来てくれるというようなコンサルティング業者にするのも有り得ると考えられる。収益事業として、キャンプ場、ロープウェイ等いくつかあるが、これらを全体的に指定管理者としてやってくれるところを探すというイメージもあると思う。しっかりと何を任せるとかというところを明確にしてサウンディングしないと、相手方の業者も何を話してよいか分からないということも良く聞くので検討をお願いします。

(委員)

東側エリアのキャンプ、グランピング、民間事業者の土地とあるが、土地の所有者が事業を展開するのか。

(事務局)

資料3（P10）の該当部分は、市が無償貸借している。基本的には、まず所有者と対話して、事業に対する意欲があるかどうかを確認していきたい。

（委員）

パークセンターが3階部分までであるが、建物の整備費用も含めて2階部分の提案をしてもらうという認識でよいか。

（事務局）

今後イベントを実施する中で、ゼロベースで検討していく。実際に実現できるかをまず検討していく。

（委員）

パークセンターはメインの建物として載っているが、必要性も含めて検討するということか。

（事務局）

展望広場と西のエリアの高低差が30メートルほどある。その高低差を繋ぐための手法の一つとして、3階建ての建物から通路でつなぐことができれば、さらに来園者が周遊できるようになる。そのような環境を作る1つの案としてパークセンターがある。パークセンターでなければならないというわけではなく、周遊できる環境を整備する手法について、費用対効果を確認しながら検討を進める。

（委員）

インバウンドが増えているとのことだが、国際定期便で来日し、徳島市内で宿泊し、まず阿波おどり会館や眉山に行かれる方は多い。眉山も活性化すれば、さらに周遊していただけると思うので引き続きお願いします。

（会長）

ロープウェイで初めて来た方は、展望台からの徳島の眺望は1番に記憶に残る。しかし、展望台に行ってから何をすればいいかわからず、経済活動がないというのが課題である。何か仕掛けがあれば、いろいろ使ってもらえそうであるという視点は重要である。パークセンターについては、どこまでのレベルで考えるか、収益施設として成り立つ場所なのかというのが1点目。30メートルの高低差の解消するために何を置くかというのが2点であるが、そのアイデアをサウンディングする観点もあると思われる。その視点によって聞く業者が変わってくる。建設費を支出してほしいという話になれば難しいと言われるかもしれないが、少なくとも赤字にならない運営ができるかどうかという議論になると思われる。周辺の活性化の度合いによって変わるが、民間業者は分かるだろう。市としてもどのような戦略でやっていくかを整理したうえで、サウンディングをされた方

がいいと思われる。

(副会長)

パークセンターもかなり費用は掛かる。アクセスも非常に障壁がある。西、南からしか車で行けず、徳島駅からはロープウェイでお金を払っていくしかない。鳴門市（エスカヒル・鳴門）のように下からエスカレーターで行けないかと構想したことがある。安くて簡単に上に行けるような移動手段があったらいいと思うが、相当なお金がかかる。上でいろいろイベントをするのも良い。

(会長)

グリーンスローモビリティで上まで上がっていくことも可能と思われる。

(事務局)

グリーンスローモビリティは電動カートベースで想定している。登坂能力が高いものもあり、幅員も通常の道路より狭くできるので、技術的なハードルはそこまで高くないと認識している。運営費は掛かるが、グリーンスローモビリティで展望広場まで上がることは可能である。

(会長)

エスカレーターよりは安いと思われる。上に行ったらどんなことがあるかという情報をうまく伝えて、デザインしなおせば結構な人が上がると思う。すべての人を乗せて上がるわけではなく、お年寄りや家族づれなどが想定される。グリーンスローモビリティを稼働するだけの価値がある場所と伝える必要がある。歩行者との分離も可能であると思われる。公道での自動運転を適用するかどうかで難易度がかなり変わってくる。

以上